

2008 年

7 月 26 日（土曜日） - 負けても上がる。「京丹後市長杯学童野球大会」に寄せて -

本日、第 4 回京丹後市長杯学童野球大会が盛大に、市内 23 チームの参加により、峰山球場において 3 日間の日程で開催されました。本大会は、昭和 52 年に青年会議所の皆さんの主催で「北丹野球大会」として始まり、京丹後市誕生を機に市長杯（京丹後市野球協会様の主催）とされましたが、少年たちの夢に向かう思い駆け巡る舞台の実現のため、提唱者の笠井栄吉様はじめ今日まで 30 年以上に亘る関係者の皆様の多大なご労苦に深く敬意を申し上げます。

少年たちには、日頃から練習に鍛えた成果をこの大きな舞台で思いっきり発揮していただきたいと願っています。当然、野球はスポーツですのでストライクもボールも、アウトもセーフも、勝つも負けるもありますが、何といても大事なものは、少年たちが取り組む「過程」、「努力した内容」それ自体です。日頃から一生懸命練習し一つひとつ気持ちを込めて努力し鍛錬しプレーすれば、プレーの結果はどうあれ、それらは全て子どもたちの将来への大切な血肉、糧になります。

また、トーナメント方式の大会は全てそうですが、優勝チーム以外は全てのチームが試合に負けて大会を終えます。そして、負けた悔しさと反省がエネルギーやバネになり、それが子どもたち一人ひとりの今後の成長への貴重な糧として積まれていきます。いわば「負けても上がる」。他方で、優勝チームのみは負けては上がらない。しかし、優勝を心底喜び、感謝し分かち合いながら、同時に、おごらず浮かれず兜の緒にも謝して締め直していく。勝ってもなお、まだまだ上がり続けていこうとする低い姿勢を一層確かなものにする。負けても勝っても、糧を得、また姿勢を低くし、上がり続けていく。そんな繰り返しが必要ではないかと思っています。

子どもたちには「無限の可能性」があります。大切なことは「夢」を持つこと、そして、試合に出る子どもたちも、出られなかった子どもたち、すべてのみんなが自分の役割の中で、ゲームでの一挙手一投足、ベンチでの仲間への声や補佐・応援、精一杯行い重ねれば、限らない可能性が多様に耕され、きっと全てが子どもたちの将来の夢へと向かう様々な力を秘めた不思議で大きな糧になります。

この 3 日間、23 チームの子どもたち、思う存分プレーをして、楽しんでください。大会を通じ、多くのチーム内外の友達との親睦や友情が育まれ、それぞれの夢へと向かって実り多い大会になりますことを心から祈念しています。（なお、以上のことは、野球大会の場合に限りませんし、すべてのスポーツ、活動を通じていえることです。私も野球以外のスポーツも大好きです。たまたま本大会に来賓として出席する機会がありましたので、関連して感想まで書いてみました。）